

第五回日中韓三国保健大臣会合の結果（概要）について

大臣官房国際課
平成23年11月13日
於 中国（青島）

1. 会合の概要

今日午前、中国（青島）で、第五回日中韓三国保健大臣会合（以下、会合とする。）が開催された。日本からは小宮山厚生労働大臣、中国からは陳竺（チン・ジク）衛生部長、韓国からは林采民（イム・チェミン）保健福祉部長官が出席し、申英秀（シン・ヨンス）WHO 西太平洋地域事務局長のオブザーバー出席を得て、新型インフルエンザ対策や食品安全、臨床研究、災害等の緊急時の対策と対応、非感染性疾患の予防と対策に関し、今後の一層の協力について意見交換を行い、「第五回日中韓三国保健大臣会合共同声明」を採択した。

2. 「第五回日中韓三国保健大臣会合共同声明」の概要

- （1）非感染性疾患の予防と対策について、三国での情報交換や協力の重要性や必要性を認識し、今後一層の取組みを三国で行っていくことを決定した。
- （2）自然災害のような緊急時の健康対応について、この分野での三国協力の進捗を確認した。また、東日本大震災の経験を通して提起された課題を三国で共有し、今後の一層の協力に関する認識を再確認した。
- （3）新型インフルエンザ対策、食品安全、臨床試験、保健関連ミレニアム開発目標達成に関して、前回会合以降の三国協力の進捗を確認した上で、三国の協力の重要性を再確認した。
- （4）次回は、2012年に日本にて開催予定。

3. 今回の日中韓三国保健大臣会合の意義

- （1）昨年11月の第四回会合以降、三国で協力して行ってきた様々な保健衛生分野の取組みを確認し、さらなる進展を目指していくことを確認した。
- （2）非感染性疾患、自然災害のような緊急時の健康対応、新型インフルエンザ、食品安全、臨床試験、保健関連ミレニアム開発目標についての「第五回日中韓三国保健大臣会合共同声明」を採択した。
- （3）日中韓の保健担当大臣が一堂に会して信頼関係を構築することは、非感染性疾患の予防と対策や自然災害のような緊急時の健康対応の分野での三国の協力の重要性・必要性に関する認識を共有するにあたり有益で

あること、また新たな感染症の発生等の国境を越えた保健課題に迅速かつ適切に対処するための協力体制の強化という意義をもつことを確認した。また、引き続き、本会合を定期的に開催していくことに合意した。

4. 併せて開催された二者会談の概要

小宮山厚生労働大臣は、日中韓三国保健大臣会合に先立って、三つの二者会談を行った。概要は次のとおり。

(1) 申英秀（シン・ヨンス）WHO西太平洋地域事務局長との会談

東日本大震災に関する支援・協力への謝辞を述べ、非感染性疾患対策等についての東アジアの域内協力体制の重要性と、日本とWHO西太平洋地域事務局の連携強化の意義について意見交換を行った。

(2) 陳竺（チン・ジク）中国衛生部長との会談

食品安全等に関する日中協力の重要性を確認するとともに、日中の保健分野における連携の推進について意見交換を行った。

(3) 林采民（イム・チェミン）韓国保健福祉部長官との会談

両国共通の課題となっている少子高齢化、国連ミレニアム開発目標等の分野における今後の協力関係について意見交換を行った。

5. その他

上記会合に関連し、「福島原子力発電所事故に関する健康対応についての小会合」（10月18日）、また「非感染性疾患の予防と対策に関するASEAN+3シンポジウム」（11月13-14日）を開催。